



元気いっぱい！ 荻っポー

No. 227 令和5年3月17日

夢と希望に向かって
努力する子ども

友達と仲良く
助け合う子ども

約束や決まりを守り
あいさつする子ども



98名の6年生が巣立っていきました！

本日、令和5年3月17日、98名の6年生が荻田小学校を巣立っていきました。

この日から荻田小学校が98名の「母校」となりました。同じ母をもつ、何と14000人以上の卒業生の仲間入りとなったわけです。

そんな、すてきな荻田小学校という「母」から生まれ出た1人としてそれぞれがこれからの人生をたくましく切り拓き、豊かに生きていくことを願います。

教職員、在校生、保護者の方々、来賓に見守られ、素晴らしい門出の卒業証書授与式となりました。

6年生と在校生、教職員、そして保護者の方々や来賓で創りあげた式は、さまざまな意味において忘れることのできない式になったのではと感じています。

心を込めて準備し、精一杯支えた在校生と教職員。その思いにしっかり応え、立派な姿を見せてくれた6年生。そしてそれを温かく見守る、保護者の方々や来賓…。この日この時、学校の頂点としてそれぞれが見事に輝いていました。そして、その輝きは確実に次の世代に引き継がれていくはずです。



美しい目で、ものを見る！

卒業式のこの時期、私は必ずといっていいほど、次のことを思い出します。

ドイツ文学者の高橋健二さんがドイツに20代のとき留学し、「2人のロッテ」という小説を書いた有名な作家「ケストナー」という方に会った時の話です。

ケストナーさんは高橋さんにこう言ったそうです。

「あなたは美しい目で物を見る」と。そのとき高橋さんは、こう思ったそうです。

「私は鋭く物を見ることのできないで、甘い見方をしている。だが、自分はどっちみち、それだけの人間でしかない。ならば、自分なりに、あらゆるものから美しさを読み取ろうと腹を決めた。自分の発見であった。」もちろん、すべてのものを美しく見ることはできないでしょうし、自分の中にもたくさん醜いものがかかえて生きているのが人間ですから、こんなこと言われても「はて、できるだろうか」と私は今も感じています。

私自身は、まだまだ美しい目でものを見ることができません。しかし、美しいものを見たいとか、作りたいという気持ちはあります。子どもたちに贈る「式辞」は美しいものを作りたい、伝えたいという気持ちから一生懸命考えました。その思いが届くことを信じて…。

令和4年 第135回卒業証書授与式 式辞

希望と喜びに溢れる今日の良き日に、来賓の皆様にご臨席を賜りますとともに、保護者の皆様のご列席を頂き、ここに荻田町立荻田小学校、令和4年度卒業証書授与式を挙げる事ができましたことは、卒業生はもとより、私たち教職員にとりまして、大きな喜びでございます。高いところからではございますが、ご臨席の皆様にご心よりお礼申し上げます。

今日晴れて、卒業式を迎えた6年生の皆さん、ご卒業おめでとうでございます。今1人1人に卒業証書を渡しました。真剣に受け取るまなざしに新たな気持ちでがんばろうという意気込みが感じられました。皆さんが今手にした卒業証書には、6年間の学び、数々の思い出が込められています。そしてそこにはご家族をはじめ多くの方々への支えがあったことを忘れないでください。コロナ禍の3年間、学校生活も一変し、多くの行事が感染防止のために変更や中止となり、楽しい思い出をつくる機会が減ってしまいました。しかし、皆さんは違っていました。「自分たちにできることをがんばろう」を合言葉に知恵を出し合い難局をいくつも乗り越えてきました。そのような中、がんばってきた、皆さんの門出をお祝いし、私からの餞として、メッセージを送ります。

『人間は考える葦である』、17世紀のフランスの哲学者パスカルの有名な言葉です。「葦」というのは、こういう字を書きます。背の高いススキのような草です。人間は自然のうちで最も弱い1本の葦にすぎない。しかし、それは「考える葦」であると言うのです。人間のか弱さと、思考する存在としての偉大さを言い表している言葉です。

こちらの写真は荻田小学校の西門に以前あった「フェニックスの木」です。5mを超える大木です。いかにも強そうです。どんな風が吹こうとも、びくともせず、悠然と立ちはだかっています。しかしこの「葦」は、少し風が吹いただけでもヨタヨタしてしまいます。パスカルは、人間をこの強い「大木」ではなく、こちらの弱い「葦」だと言うのです。その通りではないでしょうか。人間は実に頼りない存在です。勉強でも運動でも、自信が持てない自分を歯がゆいと思いながら、なかなか立て直すことができません。それが人間です。

これから皆さんが直面する「人生の風」に置き換えてみましょう。かなりの難問にぶつかってもフェニックスの木のような人であれば、平気で乗り越えていくかもしれません。葦のような人は、小さなことにクヨクヨしたり、悩んだり、挫けそうになるかもしれません。人生では想像を超えたたくさんの困難に出会います。あまりにも重い難問・課題にぶつかると、強い大木も倒れてしまう時があります。折れてしまうのです。弱い葦は尚更のことです。フラフラと倒れ、土の中に人生の苦難に埋没してしまうかもしれません。

ところが、倒れた後、弱い葦は、土の中から、少しずつ、少しずつ立ち上がり、やがて時間をかけて立ち直ることができます。なぜならば折れてしまわないからです。パスカルは、これを「人間の考える力」だと言うのです。「考える葦」は、次の言葉で締めくくられています。『私たちの尊厳は、考えるところにある。私たちはそこから立ち上がらなければならない。だから、よく考えることに努めよう。そこに道徳の原理がある』つまり、どんなことがあっても挫けてはならないのです。あきらめてはならないのです。必ず立ち上がることができるのです。

この先、社会は加速度的に変化していきます。予測不能と言われる未知の世界です。しかし予測できない未来に対応する最善の方法が1つあります。それは、自らの手で、自分たちの手で未来を創造することです。創造とは、創るということです。ゼロから未来を創る。新たな価値を生み出す。このことができるのは、皆さん1人1人です。「考える葦」として、挫けず、あきらめず、必ず立ち上がり、そして自分を信じ、友を信じ、信頼できる幸せな社会を創造してください。

最後になりましたが、保護者の皆様にご挨拶申し上げます。本日はお子様のご卒業誠にありがとうございます。手塩に掛けてこられたお子様の晴れ姿を前に感慨もひとしおのことと思います。いよいよ4月から中学生です。むずかしい時期にさしかかりますが、常に温かく見守り、愛情深く接してあげてください。愛情を十分に受けた子どもたちは、自信をもって自分の道を切り開いていくことができると思います。お子様のご多幸を心から祈念しております。また、この6年間、本校にいただきましたご支援ご協力に厚くお礼申し上げます。

さあ、卒業生の皆さん、いよいよ巣立ち行くときです。「なりたい自分」が「なれる自分」になるよう、力強く第1歩を踏み出してください。皆さんが荻田小学校の卒業生として胸を張って元気よく歩んでいくことを願い、お祝いの言葉といたします。

令和5年3月17日

荻田町立荻田小学校 校長 宮城 強